

# 学位論文審査結果の報告書

氏 名 金子 哲大

---

生 年 月 日 (昭和)・平成 39年 1月 3日

本 籍 (国籍) 東京都

---

学位の種類 博 士 (工 学 )

学位記番号 産 第 44 号


学位授与の条件 学位規程第5条2項該当  
(博士の学位)

論 文 題 目 デザイン過程におけるゆらぎに関する研究


---

---


## 審 査 委 員

(主 査) 川上 秀人 教授 

---

(副主査) 津田 和明 教授 

---

(副主査) 依田 浩敏 教授 

---

(副 査) 

---

(副 査) 

---

## 論文内容の要旨

デザインは、様々な与件の調整結果を1つの形態に落とし込むという非論理的な行為である。言語表現において相反し矛盾する事項も、形態においては同時に存在し得る。白か黒かという2極だけでなく、相反する2極間に広がるグレーゾーンには、言葉では表現しきれないほど無限の曖昧さがあり、その中でデザイン行為は行われる。

実務と教育現場の経験を踏まえると、デザイン行為およびデザインされた「もの」や「こと」に関しては、以下の3点に注目すべきである。

- ①デザイン過程は、同時並行的に「様々な問題の発生」と「デザインによる解決」がせめぎ合いながら進んでいく。
- ②デザインされた「もの」や「こと」は、言語を用いた論理的な思考と形態やイメージを用いた非論理的な思考という相反する2極間のどこかに着地した曖昧な存在である。
- ③デザイナーは、ユーザーの要望である与件と造形に対する自らの欲望、という2つの立場の思考間を行き来しなければならない。

上記3点には「2極間におけるゆらぎ」という共通の構図があり、「デザイン過程は、絶えず発生と消滅を繰り返す2極間におけるゆらぎの連鎖である」と捉えられる。本研究はデザイン過程における「ゆらぎ」を解明することを目的とする。内部観測的な視点に立ち、観測対象者と観測者を同一者（筆者）とする点に特徴を有する。デザイン過程の進捗状況を時系列に観測することによって、最終デザインに至る各過程の特徴を明らかにする。実社会に与える影響の範囲と可能性を探ることによって、デザイン行為の特質を明確にする。

デザイン過程に関する従来の研究の多くは、以下の2点を前提としている。

- ①観測対象者であるデザイナーと観測者の両者が存在する。
- ②デザイン過程において実際にデザインスケッチ等が描かれた局地的な結節点を観測地点とする。

これらは、外部観測的な視点によるものである。デザイン過程が、紆余曲折しながらも目的地へ辿りつくために確実な段階を経るとするならば、この視点は有効であろう。それぞれの結節点の積み重ねが最終的な提案になるのであれば、結節点を比較検討することで過程の変遷に意味を見出すことができるからである。

本研究では、スケッチなどに現れる結節点における思考の過程の全体を知るためには、前後の結節点の間にある思考の変遷を観測することが必要であると考え、内部観測的な視点に立ち、観測対象者と観測者を同一者とした。具体的には、社会的に評価を受けた筆者の4作品を採り上げ、その思考過程を時系列に詳述することによって、デザイン過程における「ゆらぎ」について検証した。さらに、「デザイナーとデザイン」「社会とデザイン」の関係を一般システムに見立て、何故ゆらぎが発生し、ゆらぎによって何が変わり何をもたらすかを、デザイナーのデザイン行為と社会とデザインの関係において考究した。

デザイン過程における「ゆらぎ」の検証では、「与件」「階層」「枠組」の3つが作り出す構造に着目した。

①与件：デザインの起点となる与件には、クライアントの要望だけでなくデザイナーの造形的な欲望や社会情勢における流行などもある。そして、デザイン過程の各段階では、形態と言語を用いたデザインスタディにより各与件は変質していく。

②階層：様々な事項に関わる与件の整理とは、優先順位等の階層化を行うことといえる。階層構造は与件という断片的な出来事のモンタージュであり、階層構造は1つの物語をつくり出すが、その物語から断片である各与件の階層には新たな意味が発生してくる。その新たな意味を社会的な階層と照らし合わせることで、新たなデザインスタディのためのキーワードが浮かび上がる。

③枠組：形態を用いてスタディする場合、複数の階層を縦断した思考が必要となるため、その思考の折々で縦断のための枠組を設定する。枠組で思考する際にもデザインスタディのためのキーワードが浮かび上がる。枠組（およびキーワード）はその場限りのものであるにも拘らず、デザイン過程に新たな階層として存在し始める場合がある。

上記の3点を基に観測および検証した結果、次の4点を明らかにした。

①デザインは他のものとの差異化によって新しさを作り出すが、その道筋には「合理的なデザイン」と「新奇なデザイン」の2つがある。デザイナーは、合理性と新奇性の2極間のどこかに軸足を置いてデザインを行う。

②デザイン過程における思考は、「もの」と「こと」を同時に扱うために形態的思考と言語的思考の間を振幅しながら、与件に対する自らの作業を評価し、その結果を新しい与件として捉えていく。過去と現在から未来に向けて常に前後へ振幅しながら進行していくデザインの過程は、与件と形態の間に複雑な構造をつくり出す。

③デザイン過程における様々な評価は、言語的思考と形態的思考により行われる。言語に関わる階層を特定するのに対して形態は複数の階層に関わるため、評価は単純な二者択一とはならず、言語と形態との乖離が評価に曖昧さをもたらす。

④構想の部分的な伝達を余儀なくされるデザイン過程は、デザインが大きな構造から部分的な取り合いまでいくつもの選択の積み重ねを散逸的に行う非論理的な過程によって生み出されていることを示す。

以上が本論文の結論である。

ゆらぎは、デザイナーとデザインの関係において、新しさという未知なる希望への訴求が与件の階層構造を組み替えていく際に発生する。また、社会とデザインの関係において、消費されるデザインが社会に対して問題提起をしていくことで公共性を獲得していく過程があり、ゆらぎを持つデザイン行為が社会を変革していくとする。

## 論文審査結果の要旨

実社会におけるデザインは経済的な行為であり、クライアントからデザイン料をもらうことで成立する。プロフェッショナルな経済行為において、デザイナーはクライアントのためにデザインしていることが重要であり、デザイナー自らの名誉欲や造形欲、あるいは研究対象であることを公言しづらい状況がある。そのため、無数に存在するデザインに関する著作や言説は、結果としてのデザインと矛盾しないように熟慮された事後の記述であり、デザイン過程における思考の編成や紆余曲折は意図的に排除されている。本研究は、このような実社会におけるデザインという捉えづらい研究対象に切り込もうとするところに大きな意義がある。

著名なデザイナーや学生達のスケッチやモデルといった、デザイン過程における結節点を抽出して過程を類推していく先行研究に共通する方法に対して、本研究では観測対象者と観測者を同一者として社会的な評価を受けた筆者の作品のデザインの思考過程を詳述している。単独の結節点ではなく、前後の2つの結節点を同時に俯瞰することによって、結節点間の動きを観測しようとする研究方法は同一者だからこそ可能である。

第1章で筆者の4つの作品を一般的なデザインのプレゼンテーションの作法に従って紹介し、それぞれの作品の形態とそれが生み出された背景から、社会的な評価に至った理由を示している。作品は、それ自体も大変興味深いデザインである。

第2章では「与件」「階層」「枠組」の3つが作り出す構造に視点を置いて時系列にデザイン過程を詳述している。与件の階層構造と思考のための枠組によって1つの図やキーワードを生み出し、次の過程へ新たな与件として送り出す各過程を、一連のデザイン過程としてダイアグラムとして描き出している。第1章での一般的なプレゼンテーションの言説からは伺い知れない紆余曲折したデザイン過程におけるゆらぎをダイアグラムによって明らかにしている。与件がつくる階層構造が、それを思考するための枠組によって図式化され、複雑に折り込まれていく出来事の連鎖が分かる。

第3章では、新しさを追い求めるデザイナーが意図的に新奇性を与件へ取り込むことを発端として、デザイナーの果たすべき職責とデザイナー個人の欲望、「こと」のデザインと「もの」のデザイン、そして言語的思考と形態的思考という2極間でゆらぎが発生するデザイン過程を明らかにしている。

第4章では、デザインが社会へ発信されるとき、デザイナーの意思が部分的にしか伝達されないことを、枠組による与件の階層構造の図式への折り込みに着目して明らかにしている。デザインの意味を他者へ伝達しようとする場合、デザイナーは戦略的な意図をもってデザインに込められている与件としての意味を取捨選択してプレゼンテーションしていく。このことは、上述のプロフェッショナルなデザイン行為において、デザイナーがデザイン過程における思考の編成や紆余曲折は意図的に排除することを説明している。

以上によって得られた4つの結論は、デザイン過程におけるゆらぎをデザイン行為の特質として位置づけている。社会的に評価された作品を対象として独自の研究方法から得られた本研究の知見は、新しいデザイン手法と教育方法の可能性を示唆しており、本論文は博士学位論文として相応しいと判断する。